

# SSKP

# おたより

NO. 256 令和4年・2022年7月

トライアングル金山記念聴覚障害児教育財団





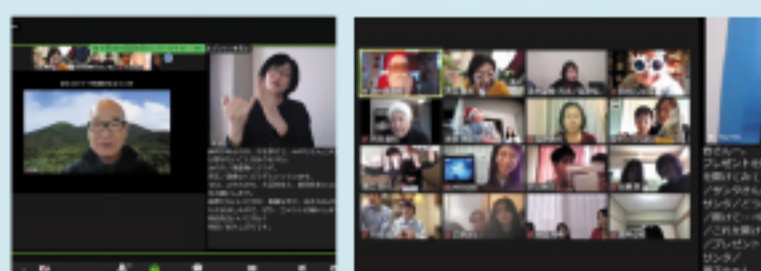
# トラライアングル金山記念財団 2022年度の活動報告及び、 2022年度の活動計画

文Ⅱ 兒玉 眞美 理事長

トラライアングル金山記念財団の皆様。いつもご支援を賜りありがとうございます。新年度になり、すでに梅雨明けを迎えてしまいました。大変遅くなり申し訳ありません。お手元に届きました「おたより」で昨年度の活動、今年度の計画についてご報告します。

## コロナ禍のなか、 ズームの遠隔情報 保障勉強会・ミニ クリスマス会

2021年はまさしくコロナ感染におびえた1年であり、トラライアングルで聴覚障害児の教育支援を直接行うことが、今までで一番



大変な年となりました。

昨年の夏より、ワクチンを接種し感染対策をとっても、子供たちに対面し接触しながら指導をするのは、厳しい状態になって行きました。

その様な状況の中でも、秋ごろから、難聴児を育てているご両親、高校生、大学生になった会員の方々から「トライアングルの友達に会いたい」「クリスマス会を楽しみにしています」との声が聞かれ、ズームの専門家、情報保障の方々にご協力をいただき、遠隔情報保障を用いたズーム勉強会・ミニクリスマス会を12月12日（日）に開催しました。

## 卒室生の延原さん 一家を講師に ズーム勉強会を 開きました

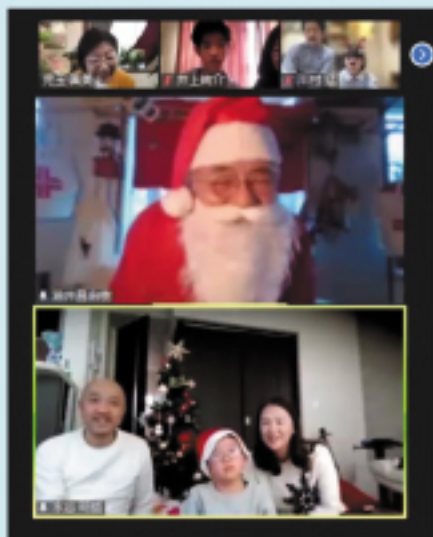
去年12月の勉強会では、大学卒業後、専門学校でWEBデザインを学び、鳥取で働いている森末（旧姓 延原）望雅（みのり）さんのご家族に、「聴覚障害児の成長と家族の支援」「両親の支えに感謝すること・社会に出るからの厳しさ」というテーマでお話をお願いしました。

## クリスマス会では 高校生や大学生が 応援してくれました

クリスマス会に関しては、11月からトライアングルの卒業生やボランティアの高校生、大学生を中心に、幼稚園や小学校低学年の子供達がズーム画面を見て楽しめるよう、話し合いを重ねました。ズーム画面の前で当日プレゼントを付けて喜んでもらうため、参加者の自宅にプレゼントを郵送し、当日まで子供達に気づかれない様、秘密にしてみました。それぞれに自己紹介やプレゼントの感想などを話してもらうこと、動画を見ながら皆で「赤鼻のトナカイ」を手話で歌うなど進行についても決めました。

## 参加した子供達が 喜んでくれた ミニクリスマス会

いざ本番、ズーム画面にサンタクロースのおじさん（油井理事）が登場したとたん、本物のサンタさんと会えたと子供達の目が輝き始め、にぎやかな雰囲気となりました。





事前に自宅に送ったトライアングルからのプレゼントは、おもちゃや、中高校生に人気の韓国コスメなどがあり、皆とても気に入っていました。高校生のお姉さんたちと、お母さんたちが、子供たちの好みを書いたメモを見ながらそれぞれにぴったりのプレゼントを選んでくれました。

私たちが予想した以上に、小学生以下の幼稚部の子供たちもズームに慣れ、友達との再会に嬉しそうでした。ズーム画面ごしのサンタさんの質問（名前やプレゼントについての感想を聞きました）に、名前を呼ばれると手を上げて、それぞれがしっかり答えており、小さい子供たちの成長ぶりに驚きました。

## トライアングルの ズームによる 教育相談

2021年度は、私自身もコロナに感染し、入院して治療を受けました。昨年の7月半ば、東京でデルタ株の感染がピークに上りつめて行く時期でした。コロナ肺炎が進み、血管の中で血栓が飛んで危険な状態だったそうです。病院関係者のお陰で抗体カクテルを打つことができた命拾いしました。



## トライアングルの 活動計画

すでに高等教育に進み、社会人として活躍しています。若い本人のかたの自主的な活動が増えるようトライアングル財団で応援していきます。

### ◆ 教育支援 ◆

ろうのご両親が補聴器や人工内耳装用のお子さんたちを育てる際の、心配事の相談にのっています。月に一回日曜日ですが、ご両親と子供との手話でのコミュニケーションを大切にしながら、お子さんの聴覚の活用や言語獲得を促していく、グループ指導を行っています。

継続した小学校までの指導は現在少数しか行っておりませんが、難聴児の子育てで心配がある方は、トライアングル児玉までご連絡下さい。ご相談をお受けします。

児玉： [mkobama21@gmail.com](mailto:mkobama21@gmail.com)

### ◆ 卒業生活動の応援 ◆

幼児期にトライアングルで育った人たちが、

### ◆ 交流支援 ◆

下記の活動につきましては詳細が決まりましたらホームページに掲載いたします。

- 1) 会員のいろいろな経験の交流システムの構築。ワーキンググループを設置
- 2) 会員スポーツ交流を行うためのワーキンググループの設置
- 3) デフテニス講習会（デフリンピック代表選手を講師として、秋に先端研で行います。）
- 4) 勉強会
- 5) 広報による就活支援 難聴大学生による、会社訪問とインタビューを支援
- 6) クリスマス会



ズーム勉強会 2021年12月12日（土）

聴覚障害児の成長の記録

# 延原さん一家の物語

講師：延原弘明氏、延原裕美氏、  
森末望稚氏、森末光太氏



高度難聴の娘が言葉が話せない。  
不安を抱えて、鳥取から東京へ

文Ⅱ文Ⅱ児玉 眞美

去年12月の勉強会では、大学卒業後、専門学校でWEBデザインを学び、鳥取でWEBデザイナーとして働いている森末（旧姓延原）望稚（みのり）さん、夫で会社員の光太さん、望稚さんのご両親の延原弘明さん・裕美さんご夫妻に講師をお願いしました。

延原さんご夫妻は、1993年、高度難聴の望稚さん（4才）が、聴力検査が充分でない事、単語を数個しか話さないことを心配し、鳥取から東京のトライアングルにいらっしやいました。指導は金山千代子先生と児玉が担当しました。

4歳児が4人、5才児は3人の7人のクラスでした。指導初期、誰とも目を合わさず、じつとつむいて座っている望稚さんを見て、ご両親はとても心配だったと思います。

## トライアングルの指導について

個人指導では、金山先生が発音指導を通じて、言葉のやりとりを行い、イントネーションのある自然な言葉を使って会話をして行きました。胸の響きや舌や唇などの感覚で発音の仕方を教えていく伝統的な発音の指導を行っていました。発音の指導は舌のさきで溶けるおせんべいなどを使い楽しく行いました。

母親を交えて遊ぶ中で、言葉をどの様に使っていくのか望稚さんに見本を見せて行きました。ドッチボール遊び一つでも、様々な言

葉を使う機会があります。始めは「ボール」「投げるよ」「逃げて」など実物や身振りをまじえた短い言葉から、「ボールが当たったら、外に出て」などだんだん長い文章を使ってきました。お母さんは、望稚さんに対して習い始めた手話で説明を加えていました。

お母さんが、望稚さんに手話を口元で使いながら接すると、望稚さんもお母さんに近づいて口元を見るようになりました。そこから母子の楽しい関係が少しずつ出来上ってきました。まだ表出される言葉は「てぶくる 買ったの」というような短い言葉でしたが、お母さんが、経験したことを言葉で上手に表して行きました。お父さんや小学校低学年のお兄さんも、トライアングルの合宿などで他の家族の難聴者への接し方を学び、望稚さんにとって楽しく話しかけをして行きました。

6才の頃から、トライアングルではお話作りを始めました。絵の上手な望稚さんは日々の体験からお話を作り、絵に表しました。お母さんが手話や文字を用いてその内容を表すと、望稚さんは言葉の意味がわかり、会話のなかで使うようになりました。情報が理解しにくい望稚さんに、手話・指文字の情報保障が加わり、母子関係が成り立ち日本語獲得の一步を踏み出したことは、聴覚口話法中心であったトライアングルにおいても、新たな貴重な経験でした。

小学校4年生で鳥取に戻るまでトライアングルで指導を続けました。

第1部



# 聴覚障害児の成長と 家族の支援

講師…父 延原弘明氏



## 東京に転居し トライアングルに

森末（旧姓 延原）望稚（みのり）の父の弘明です。よろしくお願いたします。最初に本人の紹介を私にさせていただきます。

望稚は昭和63年生まれの33歳です。2歳1カ月の時に鳥取の病院で難聴の確定診断をいただき、その後補聴器をつけて訓練開始。そして、鳥取の聾学校で教育相談を始め、1年経って鳥取聾学校の幼稚部に入學。キュードスピーチ（口形と手の動きで日本語の音を表す）を主体に教育を受け始めました。

## 鳥取へ帰り 地元の学校へ

4年東京にいて、その後、鳥取県の小学校に移り、校内の通級教室を歩き来しました。

補聴器をつけて2年近く経っても、言葉が出ずに悩んでいたところ、たまたま昭和大学耳鼻科の岡本先生と知り合い、東京に向かう決心をしました。4歳7ヶ月と遅い時期でしたが、大塚ろう学校幼稚部とトライアングルに入室し、教育を再スタートさせました。

その後、幼稚園でインテグレーション（聞こえる子供と一緒に学ぶ）して、家の近くの園に通いました。この時に知り合った大親友がいます。発音ができるようになって、幼稚園で親友ができました。娘はその親友と話すことがとても楽しく、そのことをとても感謝しているそうです。

小学校は家の隣の普通小学校、難聴教育は通級で池袋の小学校に行きました。トライアングルでは児玉先生、南村先生等から教育を受け、補聴器のフィッティング等では、耳鼻科の岡本先生に大変お世話になりました。





## 娘の成長の記録

- 2才3月◆補聴器装着、聴能訓練開始  
2才6月◆鳥取聾学校および山陰労災耳鼻科にて教育相談受ける。  
3才6月◆鳥取聾学校幼稚部入学。キュード・スピーチを主体にした教育を受ける。  
4才◆補聴器装着1年9か月経過するも獲得言語は少ないままで悩む。父弘明が漢方の研究会出席時に偶然、昭和大学耳鼻科岡本先生の教室員の先生と出会う。  
4才7ヶ月◆東京転居。当初大塚聾学校幼稚部入学と同時にトライアングル入室  
5才4月◆インテグレーションし、十文字幼稚園で健聴児と混じって教育を受ける。  
6才7月◆豊島区立清和小学校1年入学池袋第五小学校で通級による難聴教育を受ける。  
8才7月◆鳥取帰郷。鳥取市立瀬崎小学校3年生編入校内の難聴学級指導教室との間で行き来する。  
12才◆鳥取市立北中学校入学。他、同期生1名と共に校内難聴学級指導を受ける。  
15才◆鳥取県立青谷高等学校入学。1年・3年同じ先生が担任指導  
18才◆同校卒業式。卒業生代表、答辞を述べる。倉敷芸術科学大学生命科学科入学。大学では手話サークル創部  
22才◆福山YMCA専門学校コンピュータ技術科コース入学  
24才◆鳥取市内装飾店就職。  
25才◆転職。福祉総合商社、ウィード・メディカル入社採用。Web制作担当。  
トライアングルの友人と交友を深める中、現在の夫と知り合い、19年7月7日結婚

高校は県立校に入り、とても良い担任の先生に巡り会い、手話サークルを作るなど熱い指導を受けました。卒業式では卒業生代表として答辞を述べました。

高校卒業後、倉敷芸術科学大学生命科学科に入学し、そこで、生命科学の勉強をしました。大学卒業後はコンピュータが好きということで、福山YMCA専門学校に。

そして、就職活動を始めました。しかし、これが困難を極めました。40社に入社希望を出しましたが、面接に行きついていたのは東京、大阪を含めて6社。結局、鳥取の1社のみ内定と厳しい状況でした。入社後、すぐ転職し、福祉関係の会社に就職しました。

その間、トライアングルの友だちと交友を深める中で今の夫と知り合い、2019年の七夕に結婚し、本日に至っています。

## 音を役立てる

色んなお話をさせて貰いましたが、私にとって一番驚きがあったのが、ろう者、難聴者の方々が楽しんでカラオケをすることです。堂々と歌われます。それには大きなヒントを貰いました。難聴と診断され、娘をカラオケに連れて行きました。一人堂々と悦に入っていました。サビにくるとのりのりで踊るんです。今でも一人でカラオケに行くくらい大好きです。

現在、娘のコミュニケーションは聴者の方とは筆談と口話、ろう者の方とは日本語対応手話、日本語、キュードと、相手に合わせて、使い分けています。

右は90dB、左は110dBという聴力ですが、同時に音を使う訓練をしていただいたお

陰で、鳥の声、救急車の音、ドアの開け閉めの音には気づき、音が役に立っています。電話は家族としか使えない状態ですが、コミュニケーションの手段が多くあることは、大変ありがたいことです。

最後に気づいたことをまとめてみました。もちろん、情報保障はかせません。障害受容は早いほうがいい。大学は一人暮らしで、とんでもない金額の物を買わされたり、「お金をあげます」というような、甘い言葉にだまされたり、そんなことが実際にありました。しっかり話しておかないといけないと思いました。これは反省しています。

家族の支援、中でも兄弟。お兄ちゃんの存在は大変助かりました。東京におりましたとき、佐藤先生が音楽手話劇を作られて、兄弟で加わり、2人一緒に頑張ったこともありました。兄弟とはありがたいものですね。

## 娘の障がい受容に 時間がかかった

母親の裕美です。言葉を学習することの難しさについて親の立場から述べていきたいと思えます。

母親として娘が3歳〜4歳（91年10月から92年の10月）、トライアングルの教育相談と鳥取聾学校の指導を受けていた頃の当時は反省すると、「障がいの受容ができていなかった」という点が一番大きいです。

その当時は、同年齢の難聴の子供と比較してなぜ言葉の力が伸びないのか常に自問自答して、過重なストレスを感じていました。母親である自分が言語モデルを示さないといけない、聴覚口話法・キュードスピーチ・絵日記・絵カードで言葉や文章の反復などのタスクを毎日行わなければいけないといった、早期教育から生じる過度なストレスを私自身が感じ、朝から晩まで心安まる日がなかった記憶があります。

聴覚障がいのことばかり考え、可愛い我が子であることが心の底に落ちるまでに時間がかかり過ぎました。聞こえる子供に近づけたいという思いばかりで、聞こえない我が子にしっかりと向き合うことの大切さに気付かない。聞こえないことがものすごく私の中で大きくなっていました。聞こえなくても子ども

との日々の生活を素直に楽しむとか。その子のありのままを受入れ、気持ちを共有することで、それを言葉に変えたりするのがいい。頭ではわかっていても、聞こえないから娘とスムーズにコミュニケーションがとれないと思ひ込み、心がついて行かない状況にあったと思えます。

以前私は教師をしていました。そのためか言葉は教えていくものという意識が強かったのです。私が今この言葉を入れたい、教えたということ娘に求めていました。娘の心からの発信ではなく、私の思うように導いていました。どうやったら言葉が出るのかばかり考えてしまい、気持ちをまず共有して、内言というが自然に表出した言語が言葉の最初の元になること、そこを受容できていませんでした。

### 母親法で変わる

そんな私にも転機が訪れました。一つは書籍「難聴児の幸せのために」（ぶどう出版／1989年刊）を通じて母親法を実践している金山千代子先生（母と子の教室（現・トライアングル）の創設者）を知ったこと。もう一

つは夫の友人の繋がりでも昭和大学耳鼻咽喉科教授の岡本先生をはじめ大沼先生や寺島先生との出会いがあったことです。それが大きな心の変革に繋がりました。

母親法では両親の役割が重要ということですが、言葉を学習する際には一方的に親が引っ張るのではなく、一緒に遊びながらそのときの気持ちを言葉にしていきます。使い方の見本を親子の愛着の関係の中で遊びを媒体にしてやっています。

一番大きかったのは、金山先生が直接発音指導を母親たちにしてくれたことです。発音の技法は厳しかったですが、それを習得することで、母親の私は、達成感や自信を獲得していきました。

### 手話の必要性

次に母子コミュニケーションに必要な手話についてお話しします。夫は娘が聞こえないとわかってすぐに、手話を学び始めました。

延原父「私は学生時代にいろいろよそ見していて、CP（脳性麻痺）の友達もたくさんいました。結婚前に手話を学ばないかと言われたのですが、CPの彼の世話もしていたので、そこまではという状況でした。大学を卒業して、CPの彼に支援グループができたので、私はそこから離れ、同時期に結婚して望雅が生まれました。聞こえないと分かったとき、わりと自然に手話は必要だと思いました。こんな感じなので、十分な手話が身につかない



# おたより

まま、現在に至っています。ブロークンな日本語ができるのだと思っただけで、英語でも手話でも、それぞれ適当でいいんだと思っただけです。割と、必要な物は取り入れてということで、家族ではよく話していたつもりです。

母親の裕美はなかなか頑固で、手話をどうやって使うか悩んだと思います。今は私より妻は遙かに手話は上手だし、一方、私は、今後も手話は最低限診療に使える程度です」。

一方、当時の私は、手話には否定的でした。聴覚口語法を実践するのに、なぜ手話をやる必要があるのか疑問に思っていました。手話は聴覚口語法ができないろう者が使うものだと偏見の目で見ていました。

そんな私が変わったのは、94年3月に1週間、ADA（障害を持つアメリカ人法）視察旅行に渡米したときからです。このときにギャーローデット大学等を見学し、難聴者やアメリカ手話に触れました。ギャーローデッ

ト大学では手話を高く評価しており、手話を使わない先生は、辞めさせられたとも聞きました。

このツアーの参加者は20名。ろうの方が16名、健聴者は私を含めて4名。うち3名は手話ができる。一方、私は片言の指文字で挨拶ができる程度で、周りの方々が手話で何を話しているかわからず、一人取り残されたような孤独感を感じていました。ろう者に囲まれて、気づいたことがあります。娘は、聞こえる世界の中で、話していることが何も分からない、孤独感を感じているんだと。娘の立場に自分を置いてみて初めて娘の気持ちが分かった気がしました。

また、この1週間で見えない方々の生き生きとした表現、物怖じしないコミュニケーション能力に感動しました。私はここで手話という言語に魅せられ、是非娘にろう者の言語である手話に触れさせてあげたい、帰国したら一から手話を学ぼうと決意したのでした。

## 会話力が伸びる

金山先生の母親法、日々のできごとを絵に描いてみんなの前で話す活動、自分で絵を描きお話を作っていく劇遊び、その全部を含めたトータルコミュニケーション。娘はそれで変化していきました。

東京で一番最初にお会いしたのはトライアングルの教育相談という形で南村先生でした。そして、金山先生の母親指導。児玉先生には、いつもトネルの暗い中にいるように過ごしていた中、今抱えている親としての様々な悩み事を聞いてもらい適切なアドバイスをもらいました。これは大きかったと思います。

4歳6か月以降の母親法による口話聴能訓練、母親法を併用し、トータルコミュニケーションによって、十分というのは言い過ぎかもしれませんが、会話力が本当にぐんと伸びました。





# 両親の支えに感謝する日々。 社会に出てからの厳しさを。

講師・娘 森末望稚氏

みなさんこんにちは、森末みのりです。よろしくお願ひします。

## 親、そして

## 親友に感謝

2歳から4歳頃、私がなかなか発音が上手いかず、父と母は苦勞したり悩んでいたと思います。

発音が出来はじめてから、健聴者の親友のあかりちゃんと出会い、仲良くできたお陰で、しゃべることもでき、とても楽しく、それもとても大きかったです。

## 伝えたい事を 伝えるのは難しい

社会に出てから厳しさを感じるのは、社会でのコミュニケーション、正しい言葉の使い方正しい日本語等です。人に伝えたい事を伝えることは、本当に難しいことです。

学生時代に、正しい日本語を使ってない事

に、先輩や先生にもよく怒られました。正しい日本語使っていないと、相手に伝わらないよって事なんです。

今は手話を使いながら口話を使っています。ジムではお喋り厳禁なので、夫とはほとんど手話で会話しています。鳥取県は比較的コロナの感染者が少ないですが、マスクやビニールの仕切りなどがある店などで、声をかけられたときに、聞き取れなかったことがあり、「筆談をお願いします」と何度といっても、書いて貰えなくて困ったことがあります。

## 大学では 生命化学を学ぶ

大学は岡山の倉敷にある大学に通っていました。臨床検査コースを目指すつもりでしたが、1年の時、医療専門科目で1科目だけ単位不足で、夢をあきらめました。学びたいことが見つからなくて、大学を辞めたいと考えたこともありました。退学せず、新たな生命化学科コースへ進級しました。

摂取された食品の成分の生体との間のダイ

ナミックな相互の関係性について、食品機能学研究室で実験しながら勉強しました。具体的には、例えば大豆蛋白質や食物繊維の血中コレステロール濃度低下作用や豆腐、納豆などの大豆食品に含まれるイソフラボンの抗がん作用、ビタミンKにある骨粗しょう症抑制機能や赤ワインのポリフェノールの抗酸化機能などでした。そのような食品の人の体内における調節作用について、卒論を仕上げるため随分夜遅くまで実験したことがありました。体力的には辛かったです。卒業する為に頑張った甲斐があったと思います。

大学での情報保障はノートテイクです。私を真ん中に挟んで2人の筆談通訳がつかました。15分交代でした。

## 情報保障のない 就職活動

就職活動は、通訳をお願いしても断られることが多く、普通に健聴者と同様で、通訳も付きませんでした。会社に入ってから情報保障は個人的な筆談です。手話通訳もときど



# おたより



森末望雅・光太／延原裕美・弘明



き付けたことがあります。

入社してから、9年目になります。私は総務部門でWEBデザイナー担当として、仕事をしています。総務部門にデザイナー専門は私しかいません。集団での会議のようなものは行っていませんが、ほとんど個人的に会議しているようなもので、そのやり取りは筆談しています。

仕事で一番大変だったのは社長に会社の説明会ビデオ制作を頼まれた事です。営業マンのインタビューシーンに字幕を作ることが苦勞したところです。どんな内容なのか聞き取

れない事もあり、総務部門にいる同僚が筆談通訳として協力してくれたお陰で作成出来ました。

## 夫との出会い

夫と出会ったのは、3年前の5月です。東京デフサッカーチームと関連があり、新潟イビヴェというデフサッカーチームに所属しているマネージャーの友達からサッカーの練習試合のイベントへ招待されたので、新潟へ行きました。それが夫と出会ったきっかけです。

1か月後には鳥取に遊びに来てくれて、交際に発展しました。喧嘩も無く1年経ちました。結婚してから2年目、家庭生活は、料理、掃除などは旦那さんが、いろいろ手伝ってくれていますので、仲良くやっています。特に不満なことはありません。

光太（夫）「手伝ってるわけじゃない。当たり前だから」

延原父「旦那は家事を手伝うのは当たり前だと言っています（笑）」。

学校生活、  
就職活動、職場は？

小浜 千佳 先輩

## どういう支援が欲しいか 発信していくことが必要

文Ⅱ小浜千佳

### 就職活動

自分にとっての就活は、様々な企業に触れ  
自分を採用したいと思っていただけ企業に  
出会うための活動でした。聞こえない先輩か  
ら就活の話を聞いてこなかったのが、手探り  
で進めました。いち参考として、就活につい  
て書き留めておきます。自分の場合、大学1、  
2年の時は学業やサークル、アルバイト、海  
外での実習など就活で書かなければならぬ

小浜千佳さんは、トライアングル卒業後、大塚ろう学校小学部に入学しました。  
中央ろう学校中学部、高等部で学び、大学では環境生物学を学びました。  
千佳さんは場面に合わせて、手話、口話両方を使っています。  
千佳さんは、この文章で大学生活でも社会人になっても、自分が出来ることと、  
出来ないことをはっきり伝えることが大切と伝えてくれています。  
昨年春より、千佳さんはインフラ系の会社にお勤めです。

（文Ⅱ小浜千佳 著）

エントリーシートに書けそうなネタを作りま  
した。大学3年の秋から企業のインターシッ  
プに参加し、本格的に就活を始めたのは4月  
でした。世間的には就活を始めるのが遅かっ  
たと思います。最初はメーカー、IT、イン  
フラ、公務員など少しでも興味がある企業に  
片っ端から応募し、試験、面接を受けました。  
面接はコロナ禍のためオンラインでの実施で  
したが、オンラインとの相性が悪いのか二次  
を通過できないことが続きました。幸い、コ  
ロナが落ち着いた隙に、対面で企業説明を受

けた企業にそのまま応募し7月末に就活を終  
えました。やはりコロナ禍の影響で第一希望  
の選考が終わるのを待たずに今の職場に決め  
ました。終わってみれば自分のできる範囲の  
中でチャレンジ的な職場に就いたと思います。

現在の職場ではとある技術職として、課内  
の事務処理をはじめ、先輩や上司の業務のお  
手伝いをしています。1年目なので研修が多  
く勉強の日々ですが、何とかやっています。  
会社では自分の他、聴覚障害者の先輩が2人  
いらっしゃいます。同じ職種で障害がある人  
は自分だけでした。

### 大学生活

私は小学校から高校までろう学校育ちで、  
大学で初めて健常者に囲まれた環境に入りま  
した。大学には、授業での情報保障を本当に  
積極的に検討して頂きました。座学での授業



# おたより



では、教授が話す内容を健常者がパソコンで打ち込むパソコンテイク、実習では口話と筆談、UDトークやグーグルドキュメントという音声認識機能を使って文字化をして頂きました。大学での支援は、障がい学生支援室と理解のある教授、学部事務室の方から、学生

に呼びかけを行っていたいただき有料ボランティアでやってみました。  
**職場**  
そして職場でのコミュニケーション方法は、

## 手話

そのためにも少しでも手話を習得しておく  
と後が楽だと思えます。休日に学生時代の友人と手話で話すのは楽しいし、ストレス発散にもなります。自分の障害や手話に理解のある職場に恵まれ、仕事を進めています。

## 発信

聴覚障害のある自分にとって生きやすくなるためには、自分のできないこと・できることをはっきり提示してしまうことが大事だと思います。就活の際に「私は電話ができません」と提示しました。どの場面でも相手が自分をどのように受け入れたいか戸惑っていると思えます。やって頂けるかどうかは別として自分のできないことに対してどういう支援が欲しいかを発信していくことが必要だと思います。

これからも周りの方々の力を借りながら、程よく適当に頑張っていきたいです。

# 今の楽しみは、ツーリング

文：内野沙紀



## ろう学校に進学

中学校までは、地元の学校に通いました。周りは、健聴者だらけの中に私だけろう者で、友人や先生とは手話や筆談や身振りを使ってコミュニケーションを取っていました。なので、ろう学校高等部に入學しても手話など私自身のコミュニケーション手段は、変わった事はありませんでした。

高校から初めてのろう学校へ進学した時変化を感じたことは、1日中、手話でコミュニケーションを取りながら授業を受けて、勉強の内容を理解するようになり、自分から相手に伝えたい事を中途半端にせず、全て伝えられる事に心から喜びを感じました。地元の学校では、友人とコミュニケーションする時は、手話のできる友達と一緒に過ごして皆と楽しく行動することが多く、困難と

思う事はありませんでしたが、自分から伝えたい事を簡単にまとめたり、話したい部分を省略してしまう事が多かったと思います。

授業は、自分からの依頼で、サポート級の先生に自分のクラスメイトと一緒に受けてもらいました。勉強が好きでない私がサポート級の先生と隣に筆談でメモを取ってもらいながら勉強しましたが、半分理解できず皆に追いつけないまま卒業しました。

## 部活動

地元の中学校は、スポーツが強い学校でありマンモス校だったので、部活の練習がとても厳しく、人間関係がすごく大変でした。練習のメニューや遠征の説明など、先生や先輩にプリントしてもらったり、配慮してもらいました。（陸上部、ハンドボール部、柔道部に在籍しました）。

健聴者と共に活動する時は、コミュニケーションが一番の壁だったかなと思います。

ろう学校に入ってから、バレーボール部に所属しました。一からやり始めたので、知識や技術が未熟でしたが、頑張ってきました。高2から部長を任せられる事になり、皆に迷惑をかけたりにしてきましたが、途中からろう学校の近くにある健聴の高校と合同チームになり、遠征合宿したり練習試合したり、色々良い経験をさせてもらいました。合同チームの相手も手話を覚えてくれて、コミュニケーションを取りながらやってきました。



学校生活、  
就職活動、職場は？

内野 沙紀 先輩

## 事務系の仕事

理容美容専攻科まで進みましたが、就職は美容師ではなく事務系の仕事をしています。自分に合った条件を一緒に決めて、先生と相談し協力して就職先を探してもらいました。

就職は、自分に合った条件と職場の雰囲気を選びました。自分に合った条件とは、今でも社会人バレーボールをやり続けていますので、土日、祝日に練習が入る時もある為、土日、祝日はお休み。書類とパソコン両方を使った仕事を希望。ろう者が少なく健聴者に囲まれている環境の会社を希望。

本当は、体を使った仕事を希望でしたが、体を壊したら続けられなくなってしまっているので、将来の事を考えて止めました。

1日だけインターシップを受けて、その場の周りの雰囲気良かったので、今の会社に決めました。勤務先は一般社団法人かながわ土地建物保全協会です。

## コミュニケーション

日常生活の挨拶（おはようございます、ありがとうございます）を、お疲れ様）は手話を使っています。ほぼ、筆談でコミュニケーションを取っています。

コロナ禍の仕事環境については、特に難しいことはありませんでした。一時的に在宅勤務がありました。取り扱う仕事は個人情報を取り扱う為、職場からの持ち出し禁止で仕事がなく、手が空きすぎて暇でした。

## 夢中なこと

一昨年の5月に、自動二輪車免許を取得して、友達とツーリングで走りに行ったりしています。または、甥っ子と姪っ子と一緒に遊んだり、面倒をみたりしています。

休日は、友達とお出掛けしたり、家でのんびりと過ごしたりしています。



内野沙紀さんは、家族も手話を使う環境に育ちました。お兄さんはろうで日本手話をつかっています。

沙紀さんは、トライアングル卒業後、地域の小学校、中学校で学びました。高等部、専攻科と神奈川県立平塚ろう学校で学びました。

ろう学校高等部に入ってそれまでの、手話のない生活から変わって、どのようなことを感じたのか書いてくれています。

2人とも聞こえない友人、聞こえる友人と交流しながら、社会人として張り切っています。

（文＝内野沙紀さん）

# おたより

## 会員の下山田さんから、 たくさんのお絵本を御寄贈いただきました

今回、古くからの会員の下山田さんより、幼児、小学生のための素晴らしい本や図鑑を御寄贈いただきました。母と子の教室の親の会へのご入会が昭和58年で、現在福島県在住でいらつしやいます。次男の俊介さんをはじめ、お姉さんお兄さんも社会人として活躍中です。

息子さんたちの大好きだった本がきれいに保存され、本を介して過ごされた母と子の大切な時間を感じさせていただきました。手作

りの絵カードも、幼児のお母さんたちのために頂戴いたしました。

当時、合宿の準備や子供達の遊びをリードして下さったのは、行事係のお父さんたちでした。下山田さんのご家族も毎年参加され、お父さんは長い間行事担当として活躍いただいたそうです。当時トライアングルの副会長の黒田様より伺いました。ご本は先端研内のトライアングルに保存してあります。





## 大和証券株式会社 立川支店様から 100万円の ご寄付を 頂戴いたしました

思いがけない、ご寄付を大和証券様から頂戴いたしました。財団役員一同心より御礼申し上げます。

6月14日（火）に、大和証券立川支店様、宮代副部長様が、東京大学先端研3号館



401号室の、バリアフリー分野のブレイルームにお立ち寄りくださり、贈呈書を頂戴いたしました。

6月18日（金）に、財団の2022年度理事評議員会合同委員会において報告させていただきました。頂戴したご寄付により、トライアングルのオンライン化を充実し、会員の体験の交流をさらに進めていきたいと思っております。またリアルな世界では、デフリンピックの日本代表による、デフテニス講習会を秋に開催したいと考えております。

## 小林理学研究所様に 大変お世話になりました。

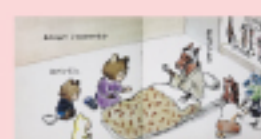
この度は、大和証券立川支店様の「子供の未来プロジェクト」寄附金につき、長年トライアングルの法人会員として、トライアングルを支えてくださっております一般財団法人小林理学研究所様よりトライアングルをご推

薦をいただき、愛顧させていただくことが出来ました。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、トライアングルの前身は、昭和41年に設立された小林理学研究所・補聴研究室「母と子の教室」です。音響学的小林理学研究所（当時佐藤孝二理事長）・昭和大学耳鼻科・筑波大学付属聾学校の連携により、民間に難聴児の指導教室が出来ました。小林理学研究所は創立時より現在まで法人賛助会員として、トライアングルへご支援を続けて下さっております。

現在の山本貢平理事長様、萬野専務理事様には、金山記念財団設立より毎年財団の様子につきましてご報告させていただき、いつも温かいお励ましの言葉を頂戴して参りました。先端研バリアフリー分野内でブレイルームを維持し、聴覚障害児を持つご両親の支援が続けられていますのも、小林理研様の継続的なご支援のお陰と思ひ感謝申し上げます。

コロナ感染の行く末を見据えながら、聴覚障害を持つ子供たちとご両親のために財団の活動を充実させて行きたいと思っております。



# おたより

## 訃報

松島敏一様

文一 児玉真美

長くトライアングルの専門家部会の会員で  
いらっしやった松島敏一さんが、令和3年1



## 鈴木梨子さんがデフリンピック・ テニス・日本代表に選ばれました

トライアングルの卒室生、鈴木梨子さんが、第24回夏季デフリンピック・テニス（開催国・ブラジル）の日本代表選手に選ばれました。

2022年5月1日から15日間、ブラジルで開催されるデフリンピック、鈴木さんは参加を心待ちにしていました。しかし、日本ろう者テニス協会は新型コロナウイルスの感染拡大を理由に選手の派遣を断念。残念ながら鈴木さんのブラジルでの活躍を見ることはできなくなりました。鈴木さんには、引き続き、この次の大会での活躍を期待します。

1月19日にご逝去されました。74才でいらっしやいました。

松島さんは、東京電機大学を卒業後、新宿リオネットセンターに勤務されました。昭和50年代、難聴者として補聴器販売、補聴相談の仕事をした草分け的存在でいらっしやったと思います。

リオネットセンターの2階に小林理学研究

所母と子の教室があり、難聴児の指導や劇団エンジェルの練習が行われていました。松島さんは母と子の教室もお手伝い下さっていました。私は、母と子の教室に研修に行っただけで、来よくお話しさせていただきました。

松島さんに最後にお会いしたのは、4年前先端研で人工内耳のお話をお聞きした時でした。人工内耳の手術をされ、高度難聴から聞こえを取り戻されたことを、松島さんは心か



# おたより

ら喜んでおられました。心よりお悔やみ申し上げます。

## 文＝谷園子（卒室生）

私が松島さんと初めてお会いしたのは、故金山先生より母と子の教室の事務所でご紹介いただいたときでした。実際に年上の聴覚障がい者にお会いする機会がなかったので、その後たくさんのことを教えていただく大先輩としてずっと親しくさせて頂いておりました。

どうしたら聴覚障がいを乗り越えられるかを考え抜き、専門の知識を駆使して様々なグッズを生み出してきた松島さん。お知らせキャンプは家庭を持つ聴覚障がい者にとって画期的なグッズで、感動したものです。夜中に子供が泣いても振動で知らせてくれるんだよ。



と嬉しそうに話してくれたことを今でも覚えています。

また、ご自慢のご自宅には素晴らしいアイデアが盛り込まれ、様々な工夫が散りばめられていました。どこにいても誰がどこにいるのかが見渡せる設計。様々なアナウンスはテ

レビ画面の切り替わりで知ることができました。更に、2階からも階下の様子がすぐわかり、聞こえなくても家族の様子が見え安心して生活できるようになっていました。

リオネットセンターを退職されてからはご自身の人工内耳装用をきっかけに全国津々浦々の行脚で人工内耳の啓蒙活動をされました。幼少・若い頃からの難聴者が人工内耳を検討する人が増えてきたのも、そんな活動のおかげなのではないでしょうか。人工内耳にしてから旅行がとてもしみになった。と言っていました。旅先で道を尋ねるにも以前ならあきらめていたことが今はできるようになったのがうれしいと話していました。

虹の橋を渡った先でも会話が楽しめるよう最新の人工内耳を持たせてあげたと奥様から伺っています。

晩年は7人のかわいいお孫さんに囲まれ、カメラを携えてお孫さんの写真を撮ることを楽しみにされていました。受賞された写真を見せていただきましたが、お孫さんを見つめる松島さんのやさしい視線がファインダー越しに伝わってくるようで、すばらしかったです。

私も松島さんからいただいた、たくさんの聴覚障がい者の縁を大事にして、これからも難聴ライフを楽しんでいきたいと思っております。松島敏一さん、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。



定価：280円（1冊）

おたより

## さがしてみよう！

表紙の絵の中には「音色・ねいろ」という文字が隠れています。どこにあるでしょうか？探してみよう！

## 表紙の絵について

「あ、ツバメの巣！」

◆騒がしいなと思って上を見上げると、ツバメの子どもたちが、口を大きく開けて全力で声を出している。そんな春の光景を見つけるとほっこりします。ツバメは渡り鳥で日本が冬の間はインドネシアやフィリピンなどの南国で過ごし、春になると子作りと子育てのために日本に戻ってきます。また、すごいことにツバメは巣を作った同じ場所を覚えていて、次の春にはちゃんとそこに（巣がなくなっていたら近くに）戻ってくるそうですよ。たまたま見かけたツバメの巣があったとしたら、そこは来年以降もそのツバメたちの実家で故郷になるんです。これを知ったら巣を壊せなくなりますね。（清須史門）

## 制作

編集：トライアングル広報部

油井昌由樹（専務理事）、田村美奈（理事）

表紙題字・絵：清須史門

デザイン：田村美奈

印刷・製本：株式会社 北斗社

## 会費の納入は、銀行口座からも可能です！

賛助会員（一口）＝年会費 5,000円

法人会員（一口）＝年会費 50,000円

会報誌「おたより」の送付／各種勉強会、講演、イベントへの参加／  
聴覚障害児教育やその他の情報の提供はか

- **みずほ銀行 渋谷中央支店 普通預金**  
口座番号：1469933  
口座名：一般財団法人  
トライアングル金山記念聴覚障害児教育財団
- **ゆうちょ銀行 普通預金**  
口座番号：10030-34235981  
口座名：トライアングル金山記念聴覚障害児教育財団
- **郵便振替番号：00120-6-764214**  
口座名：トライアングル金山記念聴覚障害児教育財団

トライアングル聴覚障害児教育財団では、新規個人会員並びに、法人会員を随時募集しております。活動の趣旨に賛同し、支援をして下さる方をご紹介します。

トライアングル金山記念聴覚障害児教育財団は、会員の皆様の会費並びに、寄付によって支えられています。聴覚障害児教育支援、交流支援事業、講演会、行事等を通じ、聴覚障害児とその家族のサポートを行っています。聴覚障害児の幸せのために、ぜひ、温かなご援助を賜りたくお願い申し上げます。



## トライアングル金山記念聴覚障害児教育財団

〒153-8904

東京都目黒区駒場4-6-1

東京大学先端科学技術研究センター 3号館

バリアフリー分野 福島智 研究室内

TEL&FAX：03-5452-5322

E-mail：mkodoma121@gmail.com

<http://trik.sakura.ne.jp>

<https://www.facebook.com/triangle.kanayama>

### 【アクセス】

#### ●交通

小田急線「東北沢」駅より徒歩7分

井の頭線「池ノ上」もしくは「駒場東大前」駅より徒歩10分

千代田線「代々木上原」駅より徒歩12分